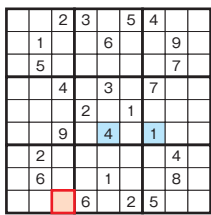


文化を創出する マイスター



の答
消去可

1	2	3	4	5	6	7	8	9
x	x	x	x	x	x	x	x	x

パズル作家

岡部政之さん

Masayuki Okabe



経歴

浜松市出身。県立静岡高校卒業、東京大学大学院博士課程修了。専門は産業機械工学、数理科学。三井金属鉱業株式会社入社。ミカンやメロンなどの糖度を測る糖度センサーの開発プロジェクトリーダーを務めた。同社退職後、外資系非鉄金属会社の品質保証部長などを歴任。67歳。先進ナンプレ協会代表。著書に「超絶難問 ナンプレ150」6冊（いずれも永岡書店）。2015年1月に同書店から超絶難問シリーズ2冊を新たに刊行。理系専門書も出版している異色のパズル作家。

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

底辺拡大に取り組み

病気をしたときに知人の勧めで始めたのがナンプレ。通称ナンプレと呼ばれるパズルだった。「解いているうちに自分でつくりたいとつまらなくなりました」。得意の数理、科学計算を生かし、パソコンで1年間かけて3600兆もの問題を作成できるデータベースを構築。出版社から難問集の執筆依頼を受け、2014年1月、作家デビューした。

岡部家は代々、京都賀茂大社系列の神官を担う。岡部さんは東岡部家の11代目で、2代目の末弟は万葉集の研究で有名な江戸時代中期の国学者・歌人、賀茂真淵。

「ナンプレは標準的な1〜4連の隠れ数字、高度なダブルクロス、トリプルクロスと、基本的には6つのわながどれだけ入っているかで、数字のかくれんぼです。見る角度を変えるなど、コツを掴めばどんどん進歩していくし、脳も鍛えられます」。岡部さんは解く面白さだけでなく、つく

る面白さも知ってもらい、同時にユーザーの底辺を広げる観点から、年内に「達人養成講座」を立ち上げ、ゆくゆくは創作問題づくりにチャレンジする「マイスター養成講座」も開設したい意向だ。

静岡オリジナルに期待

静岡市について、岡部さんは「文化を創り出すマイスターがいっぱいいるまちであってほしい。そのためには、例えば、大道芸にしてもよそから持ってくるだけでなく、自前の大道芸マイスターをどしどし育ててほしいですね。そうしないと文化として根付かないじゃないかと思うんです」と指摘する。

「お茶の分野などで頑張っている人もいますが、もっとも静岡オリジナルのマイスター群が現れてほしいですね」。

ナンプレ文化の普及に向け、静岡の若い人たちが問題創作のマイスターとして育つことを期待する岡部さん。「もし地元で大学等で創作にチャレンジしたいという『同好会』が出てくればソフトを提供してもいい」と熱い視線を送る。

サラリーマン生活を辞めて2年余。東京でのビジネス上の留意点を尋ねると「あまり参考になることは言えませんが」と断った上で、「やっぱり特徴をどこに求めるかです。常に自己研さんし、静岡をベースにした特徴を出すことが必要でしょうね」。

(写真・文：長田義明)